

技能検定のおてびき

床 及び 机上清掃

清掃部門

令和3年8月改訂

鳥取県教育委員会

目次

1	キャリア教育の推進に向けて	1
2	床及び机上清掃検定の概要	2
	(1) 検定に向けて	
	(2) 検定の種類	
	(3) 身だしなみ	
	(4) 挨拶	
	(5) 使用する用具の名称	
	(6) 検定会場図	
3	検定内容の一部改訂について	7
4	検定前準備（作業前準備）	8
	(1) ダスタークロス準備	
	(2) 柄の長さ調節	
	(3) 準備後の待機について	
5	「検定前準備」から検定までの流れ	9
	(1) チャレンジ検定	
	(2) マスター検定	
6	資材保管ラックと保管テーブルの資材配置	10
7	ビルメンテナンス業での「色」の使い分けについて《参考資料》	12
8	マスター検定の流れ	13
	(1) 開始の挨拶と清掃の用意	(2) ゴミ処理とイス上げ
	(3) ダスタークロスを使った室内拭き	(4) 水拭き用モップを使った室内拭き
	(5) イスとゴミ箱下ろし	(6) タオルを使った机拭き
	(7) 最終点検	(8) 片付けと終了の挨拶
	(9) 作業する際の標準経路	
9	チャレンジ検定の流れ	36
	(1) 開始の挨拶と清掃の用意	
	(2) ダスタークロスを使った室内掃き	
	(3) 水拭き用モップを使った室内拭き	
	(4) 最終点検	
	(5) 片付けと終了の挨拶	
	(6) 作業する際の標準経路	
10	評価と採点方法	51
	(1) 評価項目と評価基準	
	(2) 採点方法	
	(3) マスター検定とチャレンジ検定の級	
11	参考資料（技能検定進行表）	57～58

1 キャリア教育の推進に向けて

特別支援教育において、一人一人の自立や社会参加に向けて、個々の状態に応じたきめ細かい指導・支援のもと、社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育が求められています。

このたび、本書「技能検定のでびき」では、子どもたちのキャリア発達を促す上で有効な学習の一つである「清掃部門」について取りまとめています。

清掃の学習は、目的の場所を清掃し、きれいになっていくことを実感として捉えやすく、達成感や充実感をもちやすいと考えます。そのため、働くことの喜びを味わうとともに、働く意欲や態度、清掃の技術を高めようとする向上心につながっていくことが期待されます。

高等部においては、「職業」、「流通・サービス」、各教科等を合わせた指導で扱われることが多いと思いますが、清掃時間や給食時の机拭き等、学校生活全体において学ぶ機会が多くあります。

このでびきの活用をとおして、技能検定を受ける生徒においては、検定の工程や内容の理解を進め、清掃技術面の向上を目指すとともに準備や片づけを日常的にしようとすることや、場所に応じて清掃経路を考えることなど、生きた力の育成を目指してほしいと願います。

さらには、検定を受ける生徒だけでなく、小学部や中学部も含め、道具の使い方や清掃の仕方に慣れ、意欲的に清掃に取り組む子どもたちの育成のため、学校全体で活用していただくことを期待しています。

2 床及び机上清掃検定の概要

(1) 検定に向けて

清掃の検定では、定められた制限時間の中で、部屋に見立てた幅木（はばき）枠の中を指定された道具を使い、床をきれいにし、机を拭くという、一般的な室内掃除の流れを行います。検定のポイントは次の3点です。

- ・ 道具を適切に使い、ゴミの取り残しや拭き残しが無い。
- ・ 室内の物に損傷がないように丁寧に扱い、元の状態に戻っている。
- ・ 挨拶や作業中の態度は、基本的なことできている。

清掃をする際には、壁や物品を傷つけず、ゴミの取り残しや拭き残しが無いようにすることが大切になります。検定場は幅木で仕切っただけですが、幅木の上は壁になっていることを想定し、体や物がぶつからないようにします。また、流れるようにスムーズに清掃をしていくことも大切で、結果的に時間が短縮され、作業の効率がよくなり、室内で仕事している人の気を散らすことも少なくなるでしょう。ただきれいにするだけでなく、人や物に気を配りながら作業できることは、きっと就労にも役立つ力となることでしょう。

検定の流れは工程も多いため、生徒によっては順番を覚えることが難しい場合も考えられます。その際は、手順表や、道具に印をつけるなど、生徒の実態に応じた支援を取り入れてください。全て覚えて工程どおりに完璧にできることを目指すこともよいですが、実際に働くことを想定し、「どうすればできるのか」を考えて支援することも重要です。生徒が身につけている力が十二分に発揮できるように、指導、支援をしてください。

この検定をとおして、学習で身につけた清掃の技術を発揮することは大事です。その上で、職業全般をとおして大切にされる挨拶や態度、物を適切に使うことや丁寧にすることなど、検定の姿から見えてくるとすばらしいです。

(2) 検定の種類

床清掃の検定は、マスター検定とチャレンジ検定の2種類があります。

マスター検定は、1つの部屋を実際に掃除する流れで進んでいきます。机やイスがありますので、総合的な清掃技能が求められます。

チャレンジ検定は、区画内の床をきれいにする検定です。ダスタークロスやモップを使った基礎的な技能が求められます。

(3) 身だしなみ

検定時に推奨される服装です。実際の清掃業務の服装に準じています。



身だしなみや、靴の紐を結んでおくことなどは、日常的に指導を行います。普段から鏡を見て確かめることや、作業の前に紐をしっかり結ぶことなど、自分で意識できるように指導しておくことが大切です。

(4) 挨拶

検定中には3つの挨拶方法があります。

①検定開始と終了時の挨拶

片手を上げ、はっきりした声で、「始めます」、「終わります」と伝え、礼をします。

②最初の入室と最後の退室の挨拶

最初に部屋に入室するときは、帽子を取り、はっきりした声で「失礼します。」と伝え、礼をします。最後に部屋から退出するときも同様の所作で、「失礼しました。」と言います。

③作業中の入退室の挨拶

作業の途中で入退室する場合は、声を出さずに入口で礼をします。仕事の場合、何度も声をかけると業務の邪魔になる場合があるからです。

いずれの場合も、きびきびした動作で、気をつけの姿勢から礼をします。

挨拶の声や礼の仕方は日常的に指導を行います。他の学習とも関連づけて、適切な挨拶ができるように指導しておくことが大切です。

(5) 使用する用具の名称

検定で使用する用具を紹介します。ここに示した呼び方は、本てびき内で使われる呼び方です。同じ用具でも様々な呼び方があるので、生徒の実態に応じて指導してください。

(1)作業カート



用具を収納するカートです。

(2)作業表示板



作業時に部屋の前に立てます。

(3)モップ柄



ヘッドやモップ房を取り付けます。

(4)乾式モップヘッド
または
ダスターヘッド



ダスタークロスを付けて使います。

(5)ダスタークロス



床のゴミを集めるクロスです。

(6)モップ房
(湿式モップ)



床を水拭きする際に使います。

(7)小型ほうき



ゴミを集める小型のほうきです。

(8)文化ちり取り



集めたゴミが散りにくいちり取りです。

(9)タオル



机の水拭き、乾拭きに使います。

(10)ゴミ袋



ゴミ箱に合ったサイズを使います。

* 「チャレンジ検定」と「マスター検定」で使用する資材は以下のとおりです。

◎チャレンジ検定

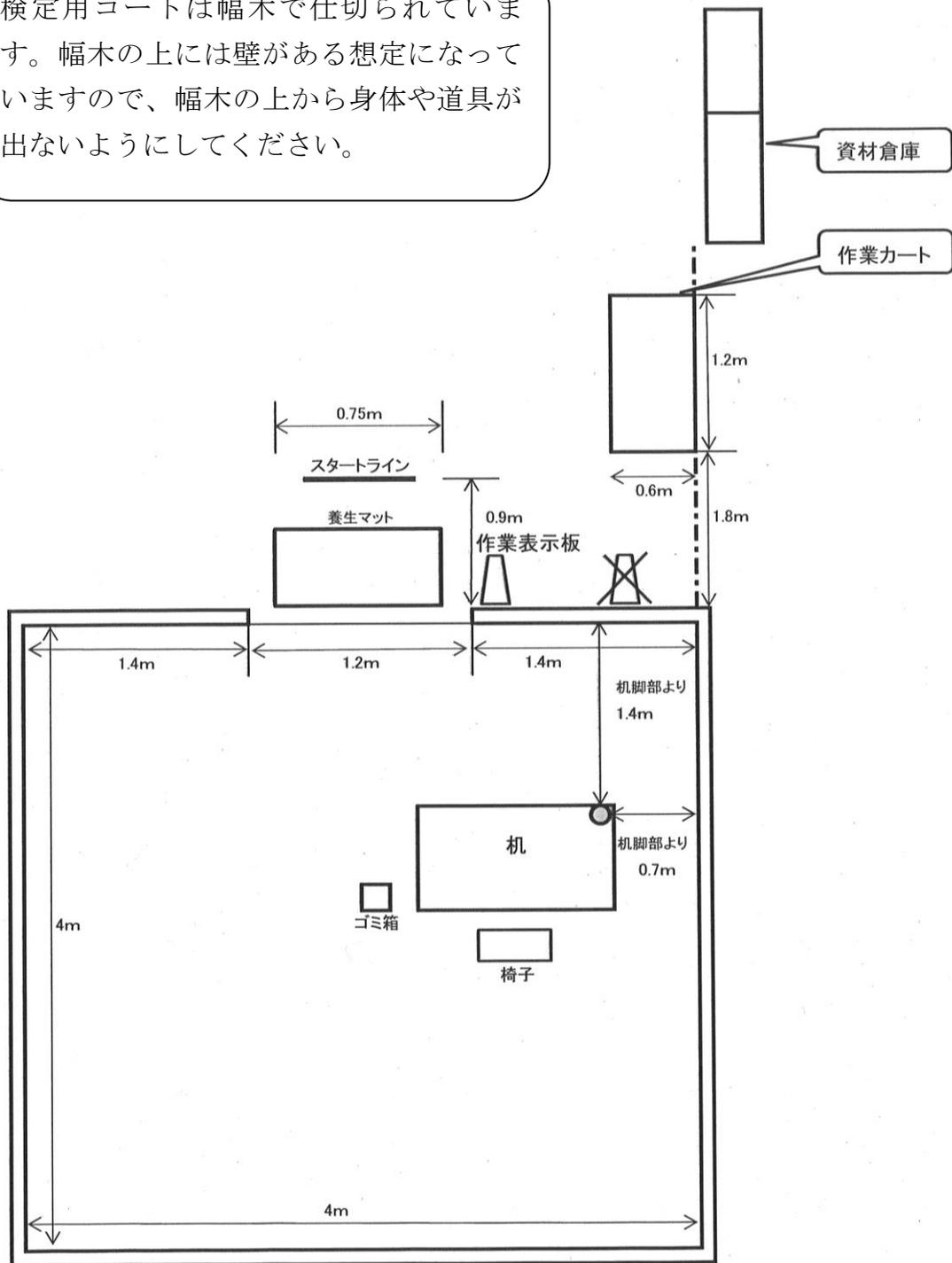
(1)～(8)の資材を使用します。

◎マスター検定

(1)～(10)の全ての資材を使用します。

(6) 検定会場図

検定用コートは幅木で仕切られています。幅木の上には壁がある想定になっていますので、幅木の上から身体や道具が出ないようにしてください。



審査員

※マスター検定の会場図です。チャレンジ検定では机、イス、ゴミ箱がありません。
 ※会場の関係で、保管場所、スタートラインの距離は変わることがあります。

3 検定内容の一部改訂について

(1) 作業工程の追加（採点には含まれません）

「作業前準備」のモップ柄の調整、ダスターヘッドへのクロスを取り付けは従来どおり変更はありませんが、新たに「検定前準備」が追加になりました。

- ① 「検定前準備」として受検者が資材保管ラック、保管テーブルから、作業に「必要な資材」と「必要でない資材」を選別して、作業カートに準備する工程を追加しました。

注：但し、「チャレンジ検定」では作業に必要な資材しか用意されていません。

(2) 作業方法の見直しについて

「チャレンジ検定」・「マスター検定」に共通の見直しと、「マスター検定」にのみ適用される見直しは以下のとおりです。

① 「チャレンジ検定」・「マスター検定」共通

- ・検定開始後、作業カートを枠外に移動し、作業表示板を“出入口近く”の作業に支障のない位置へと変更します。(P6 参照)

(従来の設置位置は作業カートの前方あたり)

注：採点には反映されませんが、“今後に向けての取り組み”としてご指導下さい。

- ・湿式モップによるコート内の幅木コーナー（四隅）の手添え方法は従来と変更はありませんが、再確認して下さい（P24、44 参照）。

② 「マスター検定」

- ・机の脚部の手添え方法ですが（湿式モップのたたみ方）、コート内（四隅）の手添え方法とは異なり、“モップ房を両側からたたんで持ち”脚部に触れないように拭き上げます。(P24 参照)

注：採点には反映されませんが、“今後に向けての取り組み”としてご指導下さい。

(3) 「チャレンジ検定」・「マスター検定」の各級の点数配分見直しについて

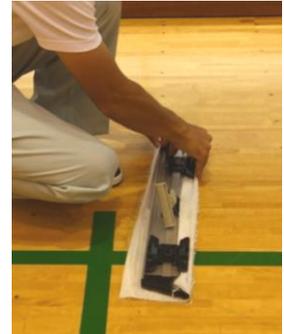
近年の受検者の技術レベルの向上は、指導者の皆様の努力もあり目覚ましい限りです。それに伴い発足当初に策定した「配分」では、より技量に見合った各級の判断が困難と考え「点数配分」の変更を行いました。(P56 参照)。

4 検定前準備（作業前準備）

検定を始める前にダスタークロスを取り付けと、モップ柄の長さ調節をします。取り付け方法と長さ調節は、次の方法で行います（採点には含まれない準備です）。

（1）ダスターにクロスを準備

ダスタークロスの中真ん中にヘッドが来るように合わせ、しわにならないように留めます。ゆるんでいたたり、しわになったりすると、ゴミを上手く集められなくなるので、注意します。



（2）柄の長さ調節

柄の長さは、床に立てて自分の顎から額の高さが丁度よいです。長すぎても、短すぎても扱いにくくなります。自分の体に合うように用具を調節する習慣をつけるようにしましょう。

（3）準備後の待機について

受検者はダスターヘッドとモップ柄を指示されたイスの横の床上に置き、補佐員からの指示があるまでイスに座って静かに待ちます。

5 「検定前準備」から検定までの流れ

(1) チャレンジ検定

- ① 補佐員からの合図「受検番号〇〇さんは作業カートに資材をセットしてください。」
- ② 作業カートにダスターヘッドとモップ柄をセット。
- ③ 資材保管ラック、保管テーブルにあらかじめ準備してある資材を作業カートにセット。
- ④ 補佐員は適切な場所にセットされているか確認（配置場所の間違いは指摘し、受検者が修正）
- ⑤ 審査員から声が掛かるまで、スタートラインに立って待機。
- ⑥ 審査員から「受検票を持ってきて下さい」の合図で審査員に受検票を手渡したあと、スタートラインに立ち検定開始。

(2) マスター検定

- ① 補佐員からの合図「受検番号〇〇さんは作業カートに資材をセットしてください。」
- ② 作業カートにダスターヘッドとモップ柄をセット。
- ③ 資材保管ラック、保管テーブルにあらかじめ準備してある資材を作業カートにセットしますが、資材保管ラック、保管テーブルには「作業に必要な資材」と「作業に必要なでない資材」が混在して置いてあり、その中から必要な用具を選び出し、カート内にセット。
- ④ 補佐員は作業に必要な用具がカート内の適切な場所に収められているか確認（配置場所の間違いは指摘し、受検者が修正）。
- ⑤ 審査員から声が掛かるまで、スタートラインに立って待機。
- ⑥ 審査員から「受検票を持ってきて下さい」の合図で審査員に受検票を手渡したあと、スタートラインに立ち検定開始。

※巻末に検定時の進行が分かるように（補佐員・審査員）の分担表を貼付してありますので参考にしてください。

※「チャレンジ検定」「マスター検定」ともに作業前準備、検定前準備は採点には含まれません。

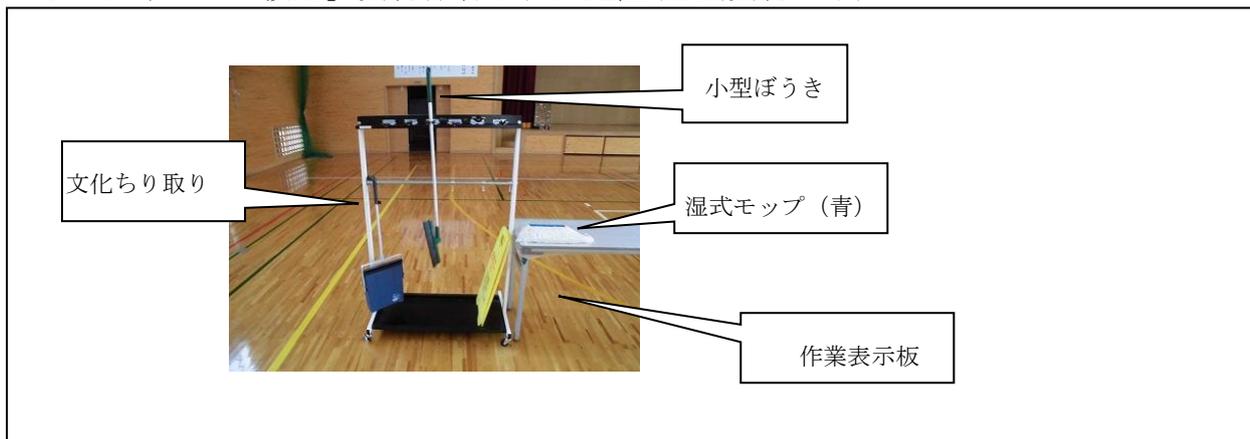
6 資材保管ラック、保管テーブルの資材配置

◎ 「チャレンジ検定」「マスター検定」

資材保管ラック、保管テーブル、作業カートの位置関係

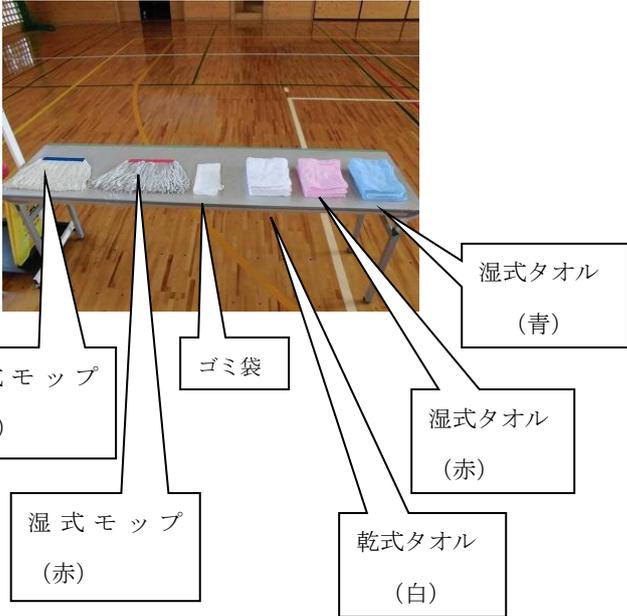


◎ 「チャレンジ検定」 資材保管ラック配置(必要資材のみ)



◎ 「マスター検定」 資材保管ラック配置

	<p>《資材保管ラック》 ラック内には作業に必要な資材と必要でない資材が混在しています。その中から必要な資材を選び出し、カートに収納します。</p> <p>・作業に必要な用具</p> <ol style="list-style-type: none"> ① <u>文化ちり取り</u> ② <u>小型ぼうき</u> ③ <u>作業表示板</u>
--	---

	<p>《資材テーブル》</p> <p>テーブル上には作業に必要な資材と必要でない資材が混在しています。その中から必要な用具を選び出し、カートに収納します。</p> <p>・作業に必要な用具</p> <ol style="list-style-type: none"> ①湿式モップ (青) ②ゴミ袋 ③乾式タオル (白) ④湿式タオル (青)
 <p>「チャレンジ検定」「マスター検定」ともに作業前準備、検定前準備は採点には含まれません。</p>	<p>《作業カート収納》</p> <p>左図はマスター検定の収納図ですが、この中から</p> <ol style="list-style-type: none"> ①ゴミ袋 ②乾式タオル (白) ③湿式タオル (青) <p>を除いたものがチャレンジ検定の収納図となります。</p>

7 ビルメンテナンス業での「色」の使い分けについて《参考資料》

◎「床及び机上清掃」を例に説明します。

- ・通常の日常清掃において、使用する資材の色分け（カラーリング）は、普段よく目にする信号機と類似点があります。
- ・国際基準では信号の色は「赤・黄・緑・青・白」の5色と定められています。

赤 ・ 黄 ・ 青（緑）	交通信号に使用
白 ・ 青	航空信号等に使用

●技能検定で使用される資材の色分け

・作業カート	青 ・ 灰色（（白系）・緑 他
・モップ柄 ・文化ちり取り ・小型ぼうき ・湿式モップ（青、緑、白、黄、赤）	青・緑・灰色（白系）他 *基本の資材の選択としてモップ持ち手、クリップ部分の色とモップ房の色を合わせることを推奨します。
・湿式タオル ・乾式タオル	青 } *使用場所、用途により色分けは 白 } 異なりますが黄・赤は注意、危険色と認識してください。
・作業表示板	黄（注意喚起色）

◎各事業者により資材の色分け（カラーリング）は異なりますが、「安全色」「注意・危険色」は統一されていますので、ここに病院を例にとり説明します（下記参照）。

色分け	病院等に準ずる名称	使用場所
	・清潔エリア	手術室他
	・通常エリア	病室・一般外来他
	・一般エリア	事務室・会議室他
	・汚染拡散防止エリア	トイレ・ゴミ置場他

*一般清掃作業において、細かく色分けはしませんが、赤・黄は注意、危険色と認識し、使用する際には使用する場所への配慮が必要です。但し、中間色の色分けについてはこの限りではありません。

*上記のカラーリングをもとに「そのエリア以外」では使用しないように分けることを「ゾーニング」といいます。

8 マスター検定（床及び机上清掃）の流れ

（1）開始の挨拶と清掃の用意

工 程	内 容	指 導 内 容
① 審査員に開始の挨拶	<ul style="list-style-type: none"> 片手を上げ、「始めます。」と言い、礼をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 始まるまでに服装や道具の点検ができるようにする。 まっすぐ立ち、礼までの動作をきびきびと行う。 審査員に聞き取りやすい挨拶の早さや声量を意識する。
② 作業カートを作業場所入口付近に移動	<ul style="list-style-type: none"> 作業しやすいように、作業カートを入口の近くに移動させる。 	<ul style="list-style-type: none"> カートが入口に近すぎたり、人が通りにくくならないようにする。 作業カートを保管場所の枠から完全に出す。
③ 作業表示板の設置	<ul style="list-style-type: none"> 見やすいように作業表示板を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 通行する人にわかりやすいように、作業表示板を設置する。 設置場所は出入り口に近い場所で、資材の出し入れに支障のない場所にする。

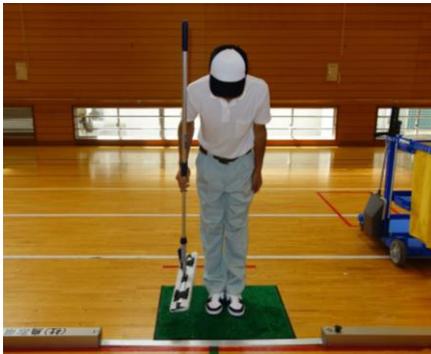
(2) ゴミ処理とイス上げ

工 程	内 容	指 導 内 容
① 最初の入室 挨拶	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入口のマット上で室内に向かって立ち、帽子を取り、はっきりした声で「失礼します。」と伝え、礼をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ まっすぐ立ち、礼までの動作をきびきびと行う。 ・ 審査員に聞き取りやすいように挨拶の早さや声量を意識する。
② イス上げ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 机の四隅からはみ出さないようにイスを置く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 机は動かさず、イスを逆さまにして置く。 ・ イスの脚がはみ出さないように横向きにして置く。 ・ 後からゴミ箱も置くので、そのスペースを空けておく。 ・ イスや机を傷つけないように、置く際には細心の注意を払う。音がしないようにするとよい。 ・ 身体全体を使って持ち上げる（安全姿勢）。
③ ゴミ袋回収	<ul style="list-style-type: none"> ・ ゴミ箱にセットされているゴミ袋を取り出す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ゴミ袋を取るときに、ゴミがこぼれたりゴミ箱が倒れたりしないように丁寧に扱う。 ・ ゴミ袋交換の際は腰を落とし片膝を床につけて交換する（安全姿勢）

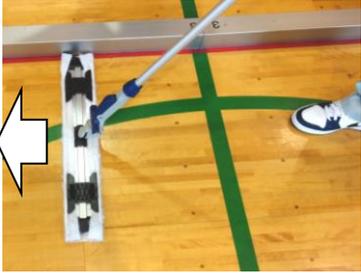
<p>④ 退出時の礼</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミ袋を持ち、入口の前で室内に向かって立ち、黙礼をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミ袋が幅木の上を通らないように気をつける。
<p>⑤ ゴミの処理</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カートの中のダストバッグに室内から持って出たゴミ袋ごとに入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミが落ちた場合は拾ってダストバッグに捨てる。
<p>⑥ 新しいゴミ袋の用意</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カートから新しいゴミ袋を用意する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミ袋は1枚だけ取るようにする。
<p>⑦ 入室時の礼</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新しいゴミ袋を持ち、入口のマット上で室内に向かって立ち、黙礼をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まっすぐ立ち、礼までの動作をきびきびと行う。

<p>⑧ 新しいゴミ袋のセット</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミ袋を処理したゴミ箱に、新しいゴミ袋をセットする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミ箱の内壁にゴミ袋が沿うようにセットする。 ・ゴミ袋交換の際は腰を落とし片膝を床につけて交換する（安全姿勢）
<p>⑨ ゴミ箱上げ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・机の四隅からはみ出さないようにゴミ箱を置く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミ箱を置くスペースが狭いときは、イスを静かに動かし、ゴミ箱を置く。 ・机を傷つけないように、ゴミ箱を置く際には細心の注意を払う。音がしないようにするとよい。
<p>⑩ 退室時の礼</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・入口前で室内に向かって立ち、黙礼をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まっすぐ立ち、礼までの動作をきびきびと行う。

(3) ダスタークロスを使った室内掃き

工 程	内 容	指 導 内 容
① 乾式モップヘッドと柄の用意	<ul style="list-style-type: none"> ・ダスタークロスの付いた乾式モップヘッドと柄を作業カートから取り出す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次の工程がわかり、スムーズに用具の用意ができるようにする。
② ダスタークロス作業用意	<ul style="list-style-type: none"> ・入口のマット上で乾式モップヘッドと柄を接続する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・腰を落とし片膝を床につけて交換する（安全姿勢）。 ・清掃中に外れることがないように、確実に接続されているか確認する。
③ 入室時の礼	<ul style="list-style-type: none"> ・入口のマット上で室内に向かって立ち、黙礼をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・柄やクロスが幅木に当たったり、幅木の上を通ったりしないように気をつける。

<p>④ 入口の除塵</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・マット上から入口付近をダスタークロスできれいにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入口の左端から扇形に拭き、自分が歩くスペースを確保してから室内に入る。
<p>⑤ 幅木ぎわ四隅の除塵</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・経路通りに端からゴミを取る。(ダスタークロス標準経路参照) 	<ul style="list-style-type: none"> ・親指で柄の先端を押しさえ、反対の手は順手で柄を握る。  <ul style="list-style-type: none"> ・四隅はヘッドを45度にして、できるだけ隅までダスタークロスを入れる。  <ul style="list-style-type: none"> ・幅木ぎわ等の直線部では胸の前で構えて、まっすぐに押す。後ろには下がらない。 

		<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミをふまないように足場を確保しながら、標準経路どおりに作業する。 ・幅木や机の脚部に、ヘッドが当たらないようにする。 ・柄が幅木からはみ出さないようにする。 ・ヘッドは床から離さない。 ・ヘッドの辺は広い方を先行させる。  <ul style="list-style-type: none"> ・中央部等の広い箇所は、ヘッドを半回転させながら左右に振る。先行させる向きが変わらないようにする。
⑥ 机下の除塵	<ul style="list-style-type: none"> ・経路通りに机の下のゴミを取る。(ダスタークロス標準経路参照) 	
⑦ 中央部の除塵	<ul style="list-style-type: none"> ・経路通りに中央部のゴミを取る。(ダスタークロス標準経路参照) 	

		
<p>⑧ ダスタークロス の 処理</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・入口前で終了し、乾式モップヘッドからダスタークロスを外す。 ・ダスタークロスを折りたたんで持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ダスタークロスを外すときにゴミが散らないように気をつける。 ・汚れた面を内側にしてたたむ。  <ul style="list-style-type: none"> ・乾式モップヘッドを床に置くときは、保護のためスポンジ面を上にもむけて置く。
<p>⑨ 退室時の 礼</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・折りたたんだダスタークロス、乾式モップヘッド、柄を持ち、入口前で礼をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・柄が幅木の上を通らないように気をつける。
<p>⑩ ダスター クロス の 片づけ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・使用済みのダスタークロスを作業カートのダストバッグに入れ、乾式モップヘッドと 	<ul style="list-style-type: none"> ・用具を取り出した場所に戻す習慣をつける。 ・用具は落ちたり作業の邪魔になっ

	<p>柄を作業カートに戻す。</p> 	<p>たりしないように適切に戻すようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 乾式モップヘッドは保護のためスポンジ面が上向きになるようにしておく。
<p>⑪ 小型ぼうきと文化ちり取りの用意</p>	<ul style="list-style-type: none"> 作業カートから小型ぼうきと文化ちり取りを用意する。 	<ul style="list-style-type: none"> 次の工程がわかり、スムーズに用具の用意ができるようにする。
<p>⑫ 入室時の礼</p>	<ul style="list-style-type: none"> 入口のマット上で室内に向かって立ち、黙礼をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ほうきやちり取りが幅木の上を通らないように気をつける。
<p>⑬ ゴミを取る</p>	<ul style="list-style-type: none"> 小型ぼうきを使って文化ちり取りにゴミを集める。 	<ul style="list-style-type: none"> 小型ぼうきは順手で持ち、指先を立てて柄を支える。 文化ちりとりの中にほうきの半分を入れる。

		
<p>⑭ 点検</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小型ぼうきと文化ちり取りを持ち、ゴミの取り残しがないか、室内を指さし点検する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・周囲に仕事をしている人がいることを想定して、声を出さずに目視と指さしで点検する。 ・机の周りや四隅など、ダスタークロスでゴミが取りにくい箇所は特に注意深く点検する。 ・ゴミの取り残しがあれば取る。
<p>⑮ 退室時の礼</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小型ぼうきと文化ちり取りを持ち、入口前で黙礼をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ほうきやちり取りが幅木の上を通らないように気をつける。
<p>⑯ 小型ぼうきと文化ちり取りをカートに戻す</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小型ぼうきと文化ちり取りを作業カートに戻す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・用具は取り出した場所に戻す習慣をつける。 ・用具は落ちたり作業の邪魔にならないように適切に戻すようにする。

(4) 水拭き用モップを使った室内拭き

工 程	内 容	指 導 内 容
① モップ房と柄の用意	<ul style="list-style-type: none"> モップ房と柄を作業カートから取り出す。 	<ul style="list-style-type: none"> 次の工程がわかり、スムーズに用具の用意ができるようにする。
② モップ作業用意	<ul style="list-style-type: none"> 入口のマット上でモップ房と柄を取り付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 床を汚さないように、必ずマット上で取り付ける。 清掃中に外れることがないように、確実に接続されているか確認する。 片膝を床につけて交換する(安全姿勢)
③ 入室時の礼	<ul style="list-style-type: none"> 入口のマット上で室内に向かって立ち、黙礼をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 柄やモップ房が幅木の上を通らないように気をつける。 床面やマット上にモップ房をつけたまま移動しない。

<p>④ 幅木ぎわ・ 四隅の水拭き</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・経路通りに端から拭く。 (水拭き用モップ標準経路参照) ・隅を拭くときはモップ房に手を添えて拭く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・親指で柄の先端を押さえ、反対の手は順手で柄を握る。  <ul style="list-style-type: none"> ・幅木側の四隅を拭くときは、片膝をつけて安定した姿勢を取り、モップ房をまとめるように手を添える。
<p>⑤ 机下の水拭き</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・経路通りに机の下を拭く。(水拭き用モップ標準経路参照) ・机の足元を拭くときは幅木側の持ち方と違い両側から折りたたむようにして持ち脚部に触れないように拭き上げる。  	  <ul style="list-style-type: none"> ・動きやすく、次の動作に移りやすいことを考え、手を添えて拭くのは幅木の四隅から40～50cmの距離がよい。 ・幅木や机の脚部に、モップ房が当たらないようにする。 ・柄が幅木からはみ出さないようにする。

<p>⑥ 中央部の水拭き</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・経路通りに中央部を拭く。(水拭き用モップ標準経路参照) 	<ul style="list-style-type: none"> ・拭いたところを踏まないために横拭きとし、後退作業を基本とする。  <ul style="list-style-type: none"> ・後退作業で横拭きをするときは、モップ房を扇状に動かさず、横一直線に拭き上げる。 ・同じ面だけを使わないように、移動する方向を変えるまでに1～2回はモップ房をひっくり返して拭く。 ・移動する方向を変えるときには、モップ房をひっくり返す。 ・拭き跡に少しモップ房を重ねて拭き上げるようにし、拭き残しがないようにする。重なりを均等にすると拭きむらがなくなってよい。
<p>⑦ 退室時の礼</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・モップを持ち、入口前で黙礼をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・柄やモップ房が幅木の上を通らないように気をつける。 ・床面やマット上にモップ房をつけたまま移動しない。

<p>⑧ モップ処理</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・入口のマット上でモップ房と柄を取り外す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・床が汚れないように、必ずマット上でモップ処理をする。
<p>⑨ モップ房と柄の片づけ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・モップ房と柄を作業用カートに戻す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・用具は取り出した場所に戻す習慣をつける。 ・用具は落ちたり作業の邪魔になったりしないように適切に戻すようにする。 ・モップ房は折りたたんで、収納場所からはみ出ないようにする。

(5) イスとゴミ箱下ろし

工 程	内 容	指 導 内 容
① 入室時の礼	<ul style="list-style-type: none"> ・入口のマット上で室内に向かって立ち、黙礼をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まっすぐ立ち、礼までの動作をきびきびと行う。
② ゴミ箱とイス下ろし	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミ箱とイスを下ろし、元の場所に戻す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・机や床に傷がつかないように丁寧に扱う。音がしないようにすると接地が丁寧になる。 ・下ろした後に、元の位置に戻っているか、曲がっていないか等を確認する。
③ 退室時の礼	<ul style="list-style-type: none"> ・入口前で黙礼をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まっすぐ立ち、礼までの動作をきびきびと行う。

(6) タオルを使った机拭き

工 程	内 容	指 導 内 容
① タオルの用意	<ul style="list-style-type: none"> 作業用カートから、青タオル（湿式）と白タオル（乾式）を取り出す。 	<ul style="list-style-type: none"> 次の工程がわかり、スムーズに用具の用意ができるようにする。 タオルを2種類用意することを忘れないようにする。
② 入室時の礼	<ul style="list-style-type: none"> 入口のマット上で室内に向かって立ち、黙礼をする。 	<ul style="list-style-type: none"> まっすぐ立ち、礼までの動作をきびきびと行う。
③ 机の水拭き	<ul style="list-style-type: none"> 机の縁に青タオル（湿式）を当て、四隅に向かって順に拭いていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 机の縁を拭くときは、タオルを少し縁に掛けて上から指もかけるようにし、タオルがずれないようにする。  <ul style="list-style-type: none"> 拭く向きを変えるときには、タオルの新しい面に折り変えるようにする。 平らな面を拭くときにはタオルから

	<ul style="list-style-type: none"> ・タオルを折り返してきれいな面を出す。 ・机の中央を縦拭き（横拭き）する。 	<p>手が離れないように、タオルの中心に手を置き、指は伸ばす。親指側と小指側で軽く挟むようにするとよい。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・タオルを折り返してきれいな面を出す。 ・机の中央を横拭き（縦拭き）する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・拭いた面に少し重なるように拭いていき、拭き残しがないように気をつける。 ・使わないタオルを持っている方の手で机の角を押さえ、体を安定させると同時に机が動かないようにする。
<p>④ 机の乾拭き</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・机の縁に白タオル（乾式）を当て、四隅に向かって順に拭いていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・拭き始めの場所を一定にするようにし、スムーズに拭けるようにする。
	<ul style="list-style-type: none"> ・タオルを折り返してきれいな面を出す。 ・机の中央を縦拭き（横拭き）する。 	



	<ul style="list-style-type: none"> ・タオルを折り返してきれいな面を出す。 ・机の中央を横拭き（縦拭き）する。 	
<p>⑤ 退室時の礼</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・入口前で黙礼をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タオルは使用が終わっているので、片手にまとめて持ってもよい。
<p>⑥ タオルを戻す</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・作業カートに、青タオル（湿式）と白タオル（乾式）を戻す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・用具は取り出した場所に戻す習慣をつける。 ・用具は落ちたり作業の邪魔になったりしないように適切に戻すようにする。

(7) 最終点検

工 程	内 容	指 導 内 容
① 入室時の礼	<ul style="list-style-type: none"> ・入口のマット上で室内に向かって立ち、黙礼をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まっすぐ立ち、礼までの動作をきびきびと行う。
② 最終点検	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミが残っていないか指さしで確認する。 ・机やゴミ箱の位置は元通りになっているか指さしで確認する。 ・機材の忘れ物がないか確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミが落ちていたら拾ってズボンのポケットに入れる。 ・イスやゴミ箱がずれていたら正しい位置に戻す。 ・機材の忘れ物があった場合は持ち出し、作業用カートに戻す。 ・周りの状況に配慮し、指さし点検は声を出さずに行う。
③ 最後の退室挨拶	<ul style="list-style-type: none"> ・入口前に立ち、帽子を取り、「失礼しました。」と、はっきりした声で伝え、礼をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まっすぐ立ち、礼までの動作をきびきびと行う。 ・審査員に聞き取りやすいように挨拶の早さや声量を意識する。

(8) 片付けと終了の挨拶

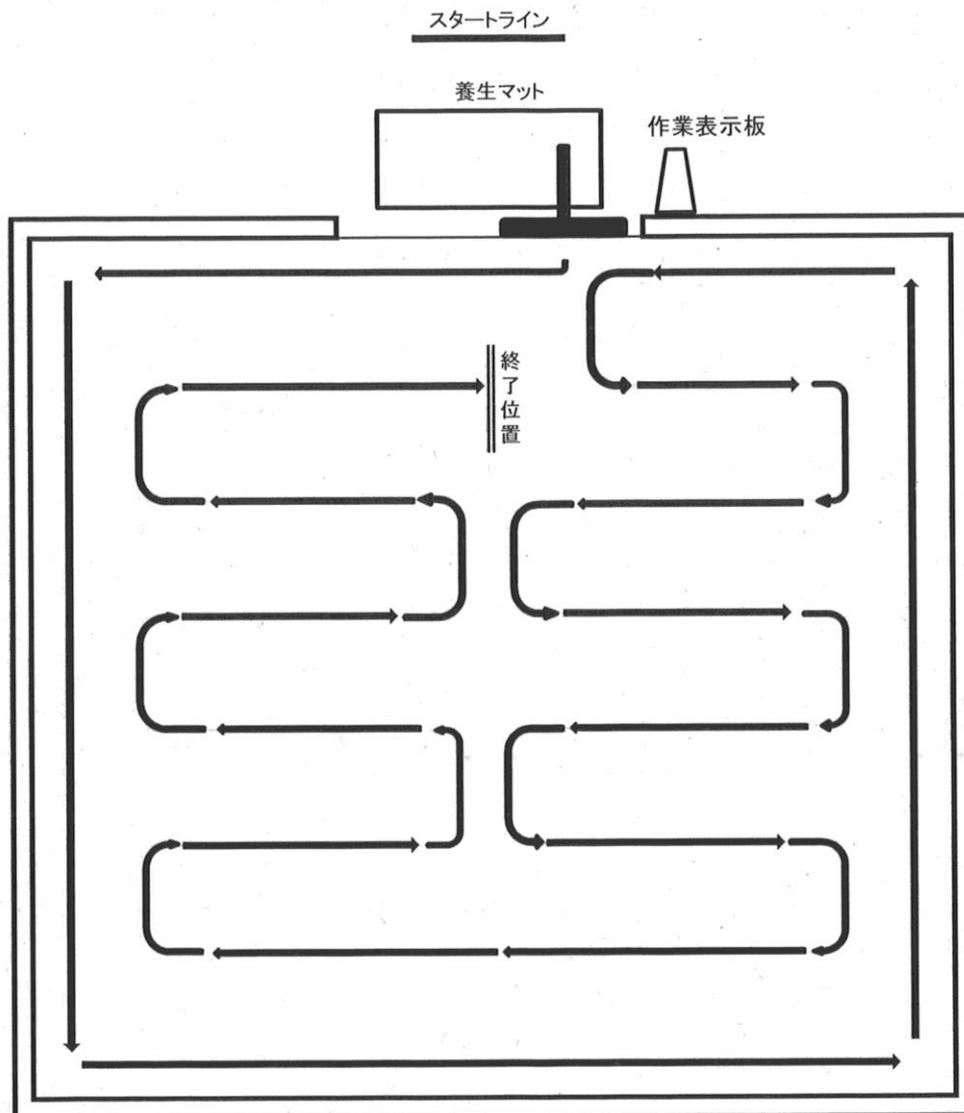
工 程	内 容	指 導 内 容
① 作業表示板を戻す	<ul style="list-style-type: none"> 作業表示板を回収し、作業カートにしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> 作業表示板は静かに持ち上げ、落とさないように注意しながらカートに戻す。 最終点検でゴミを拾った場合は、ダストボックスに入れてから表示板を戻す。
② 作業カートを収納場所に移動	<ul style="list-style-type: none"> 作業カートを収納場所に戻す。 	<ul style="list-style-type: none"> 使用した道具は元の場所に戻す習慣をつける。
③ 審査員に終了の挨拶	<ul style="list-style-type: none"> 片手を上げ、「終了しました。」と言い、礼をする。 	<ul style="list-style-type: none"> まっすぐ立ち、礼までの動作をきびきびと行う。 審査員に聞き取りやすいように挨拶の早さや声量を意識する。

(9) 作業する際の標準経路

①ダスタークロス標準経路 (マスター検定)

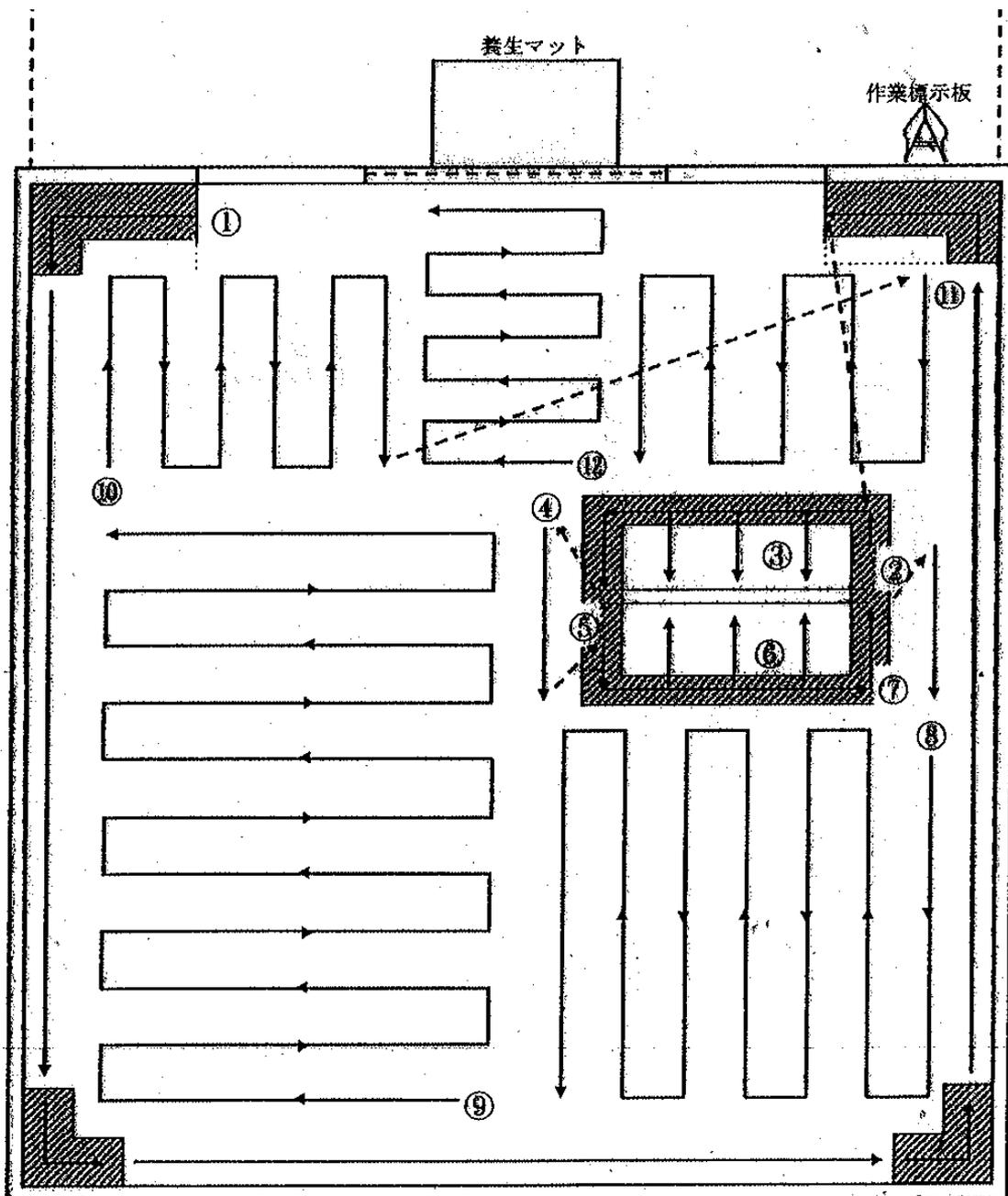
チャレンジ検定

乾式モップ作業手順



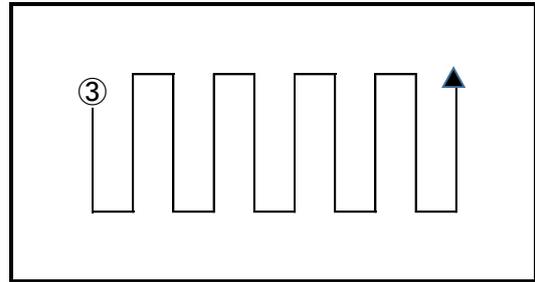
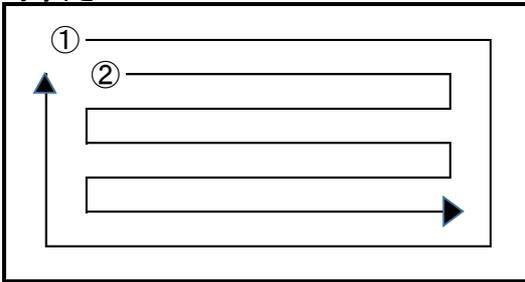
②水拭き用モップの標準経路（マスター検定）

※斜線部分は手添えで清掃する箇所

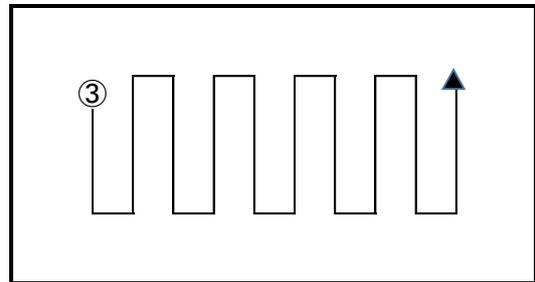
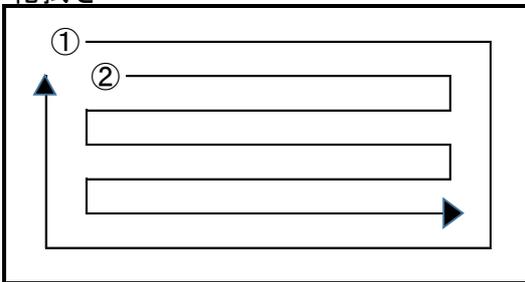


③テーブル拭きの標準経路

水拭き



乾拭き



①～③は必ず開始の場所ではない。

四辺を拭き上げ後、2種類の技法（縦・横）で拭き上げる。縦・横のどちらが先でも構わない

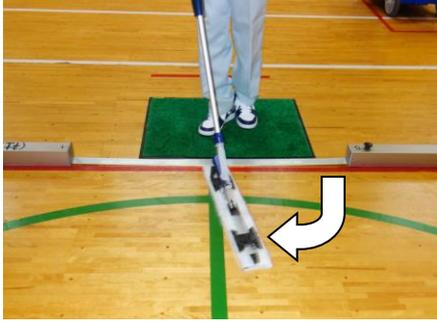
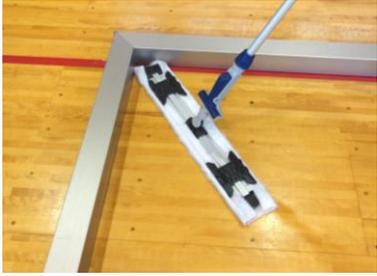
9 チャレンジ検定の流れ

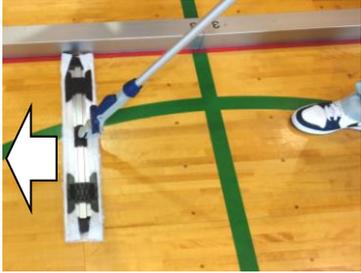
(1) 開始の挨拶と清掃の用意

工 程	内 容	指 導 内 容
① 審査員に開始の挨拶	<ul style="list-style-type: none"> 片手を上げ、「始めます。」と言い、礼をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 始まるまでに服装や道具の点検ができるようにする。 まっすぐ立ち、礼までの動作をきびきびと行う。 審査員に聞き取りやすい挨拶の早さや声量を意識する。
② 作業カートを作業場所入口付近に移動	<ul style="list-style-type: none"> 作業しやすいように、作業カートを入口の近くに移動させる。 	<ul style="list-style-type: none"> カートが入口に近すぎたり、人が通りにくくならないようにする。
③ 作業表示板の設置	<ul style="list-style-type: none"> 見やすいように作業表示板を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 通行する人にわかりやすいように、作業表示板を設置する。 作業表示板は出入口に近い場所に設置する。

(2) ダスタークロスを使った室内掃き

工 程	内 容	指 導 内 容
① 乾式モップヘッドと柄の用意	<ul style="list-style-type: none"> ・ダスタークロスの付いた乾式モップヘッドと柄を作業カートから取り出す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次の工程がわかり、スムーズに用具の用意ができるようにする。
② ダスタークロス作業用意	<ul style="list-style-type: none"> ・入口のマット上で乾式モップヘッドと柄を接続する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃中に外れることがないように、確実に接続されているか確認する。
③ 最初の入室挨拶	<ul style="list-style-type: none"> ・入口のマット上で室内に向かって立ち、帽子を取り、「失礼します。」と、はっきりした声で伝え、礼をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まっすぐ立ち、礼までの動作をきびきびと行う。 ・審査員に聞き取りやすいように挨拶の早さや声量を意識する。 ・柄やクロスが幅木に当たったり、幅木の上を通ったりしないように気をつける。

<p>④ 入口の除塵</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・マット上から入口付近をダスタークロスできれいにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入口の左端から扇形に拭き、自分が歩くスペースを確保してから室内に入る。
<p>⑤ 幅木ぎわ四隅の除塵</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・経路通りに端からゴミを取る。(ダスタークロス標準経路参照) 	<ul style="list-style-type: none"> ・親指で柄の先端を押さえ、反対の手は順手で柄を握る。 
<p>⑥ 中央部の除塵</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・経路通りに中央部のゴミを取る。(ダスタークロス標準経路参照) 	<ul style="list-style-type: none"> ・四隅はヘッドを45度にして、できるだけ隅までダスタークロスを入れる。  <ul style="list-style-type: none"> ・幅木ぎわ等の直線部では胸の前で構えて、まっすぐに押す。後ろには下がらない。 

		<ul style="list-style-type: none"> ・標準経路どおりに、ゴミをふまないように足場を確保しながら作業する。 ・幅木にヘッドが当たらないようにする。 ・柄が幅木からはみ出さないようにする。 ・ヘッドを床から離さない。 ・ヘッドの辺は広い方を先行させる。  <ul style="list-style-type: none"> ・中央部等の広い箇所は、ヘッドを半回転させながら左右に振る。先行させる向きが変わらないようにする。
<p>⑦ ダスタークロス の 処理</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・入口前で終了し、乾式モップヘッドからダスタークロスを外す。 ・ダスタークロスを折りたたんで持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ダスタークロスを外すときにゴミが散らないように気をつける。 ・汚れた面を内側にしてたたむ。  <ul style="list-style-type: none"> ・乾式モップヘッドを床に置くときは、保護のためスポンジ面を上にもむけて置く。

<p>⑧ 退室時の礼</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・折りたたんだダスタークロス、乾式モップヘッド、柄を持ち、入口前で黙礼をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・柄が幅木の上を通らないように気をつける。
<p>⑨ ダスタークロスの片づけ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・使用済みのダスタークロスを作業カートのダストバッグに入れ、乾式モップヘッドと柄を作業カートに戻す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・用具を取り出した場所に戻す習慣をつける。 ・用具は落ちたり作業の邪魔にならないように適切に戻すようにする。 ・乾式モップヘッドは保護のためスポンジ面が上向きになるようにしておく。
<p>⑩ 小型ぼうきと文化ちり取りの用意</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・作業カートから小型ぼうきと文化ちり取りを用意する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次の工程がわかり、スムーズに用具の用意ができるようにする。

<p>⑪ 入室時の礼</p>	<p>・入口のマット上で室内に向かって立ち、黙礼をする。</p> 	<p>・ほうきやちり取りが幅木の上を通らないように気をつける。</p>
<p>⑫ ゴミを取る</p>	<p>・小型ほうきを使って文化ちり取りにゴミを集める。</p> 	<p>・ほうきは順手で持ち、指先を立てて柄を支える。</p>  <p>・文化ちりとりの中にはほうきの半分を入れる。</p> 

<p>⑬ 点検</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小型ぼうきと文化ちり取りを持ち、ゴミの取り残しがないか、室内を指さし点検する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・周囲に仕事をしている人がいることを想定して、声を出さずに目視と指さしで点検する。 ・四隅など、ダスタークロスでゴミが取りにくい箇所は特に注意深く点検する。 ・ゴミの取り残しがあれば取る。
<p>⑭ 退室時の礼</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小型ぼうきと文化ちり取りを持ち、入口前で黙礼をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ほうきやちり取りが幅木の上を通らないように気をつける。
<p>⑮ 小型ぼうきと文化ちり取りをカートに戻す</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小型ぼうきと文化ちり取りを作業カートに戻す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・用具は取り出した場所に戻す習慣をつける。 ・用具は落ちたり作業の邪魔になつたりしないように適切に戻すようにする。

(3) 水拭き用モップを使った室内拭き

工 程	内 容	指 導 内 容
① モップ房と柄の用意	<ul style="list-style-type: none"> モップ房と柄を作業カートから取り出す。 	<ul style="list-style-type: none"> 次の工程がわかり、スムーズに用具の用意ができるようにする。
② モップ作業用意	<ul style="list-style-type: none"> 入口のマット上でモップ房と柄を取り付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 床を汚さないように、必ずマット上で取り付ける。 清掃中に外れることがないように、確実に接続されているか確認する。
③ 入室時の礼	<ul style="list-style-type: none"> 入口のマット上で室内に向かって立ち、黙礼をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 柄やモップ房が幅木の上を通らないように気をつける。 床面やマット上にモップ房をつけたまま移動しない。

<p>④ 幅木ぎわ・ 四隅の水拭き</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・経路通りに端から拭く。 (水拭き用モップ標準経路参照) ・隅を拭くときはモップ房に手を添えて拭く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・親指で柄の先端を押さえ、反対の手は順手で柄を握る。 
<p>⑤ 中央部の水拭き</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・経路通りに中央部を拭く。(水拭き用モップ標準経路参照) 	<ul style="list-style-type: none"> ・四隅を拭くときは、片膝をついて安定した姿勢を取り、モップ房をまとめるように手を添える。   <ul style="list-style-type: none"> ・動きやすく、次の動作に移りやすいことを考え、手を添えて拭くのは幅木の四隅から40～50cmの距離がよい。 ・幅木に、モップ房が当たらないようにする。

		<ul style="list-style-type: none"> ・柄が幅木からはみ出さないようにする。 ・拭いたところを踏まないために横拭きを基本とする。  <ul style="list-style-type: none"> ・後退作業で横拭きをするときは、モップ房を扇状に動かさず、横一直線に拭き上げる。 ・移動する方向を変えるまでに1～2回はモップ房をひっくり返して拭く。 ・移動する方向を変えるときには、モップ房をひっくり返す。 ・拭き跡に少しモップ房を重ねて拭き上げるようにし、拭き残しがないようにする。重なりを均等にすると拭きむらがなくなってよい。
<p>⑥ 退室時の礼</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・モップを持ち、入口前で黙礼をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・柄やモップ房が幅木の上を通らないように気をつける。 ・床面やマット上にモップ房が付いたまま移動しない。

<p>⑦ モップ処理</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入口のマット上でモップ房と柄を取り外す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 床が汚れないように、必ずマット上でモップ処理をする。
<p>⑧ モップ房と柄の片づけ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ モップ房と柄を作業カートに戻す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 用具を取り出した場所に戻す習慣をつける。 ・ 用具は落ちたり作業の邪魔になったりしないように適切に戻すようにする。 ・ モップ房は折りたたんで、収納場所からはみ出ないようにする。

(4) 最終点検

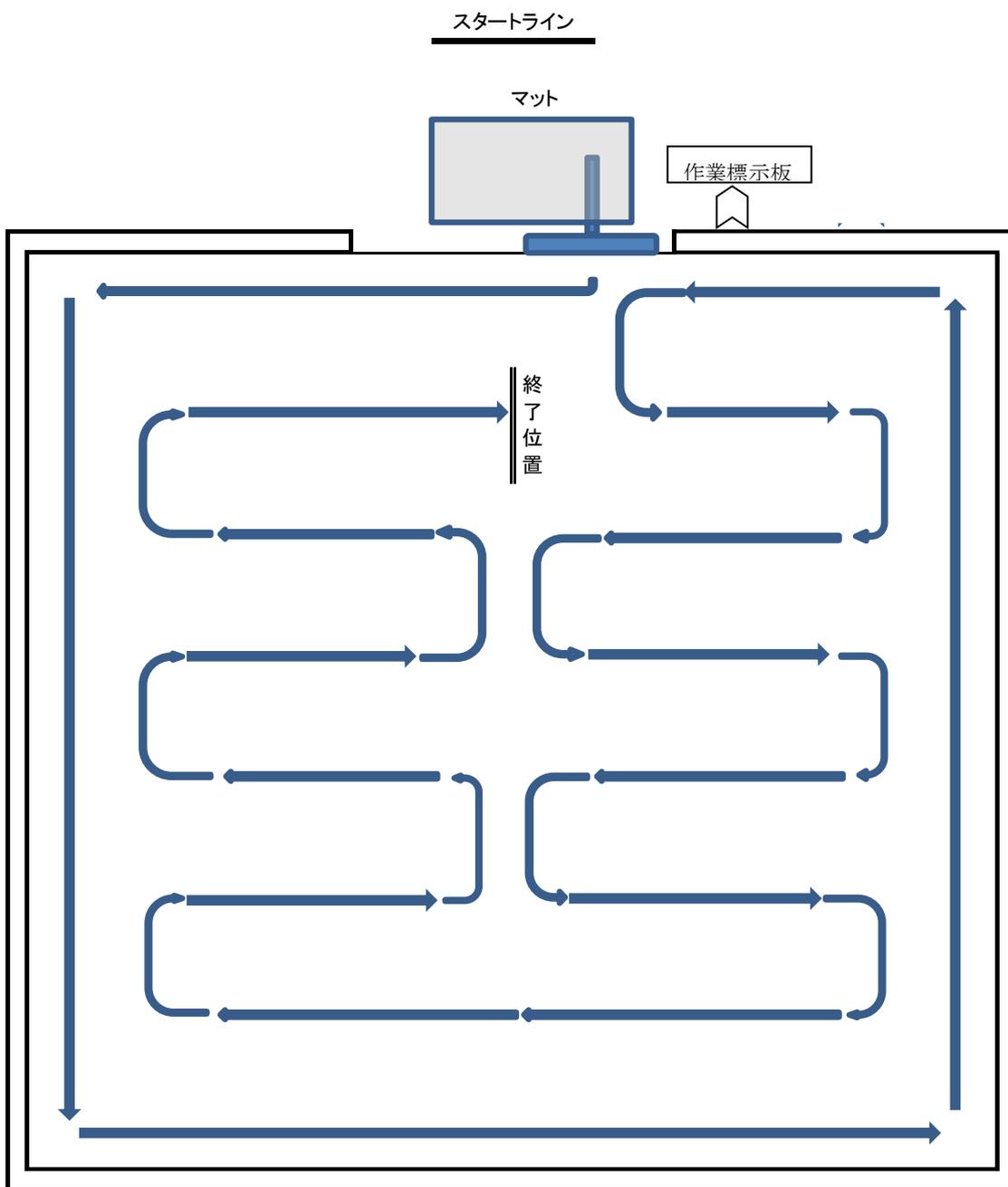
工 程	内 容	指 導 内 容
④ 入室時の礼	<ul style="list-style-type: none"> ・入口のマット上で室内に向かって立ち、黙礼をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まっすぐ立ち、礼までの動作をきびきびと行う。
⑤ 最終点検	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミが残っていないか指さしで確認する。 ・機材の忘れ物がないか確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミが落ちていたら拾ってズボンのポケットに入れる。 ・機材の忘れ物があった場合は持ち出し、作業カートに戻す。 ・周りの状況に配慮し、指さし点検は声を出さずに行う。
⑥ 最後の退室挨拶	<ul style="list-style-type: none"> ・入口前に立ち、帽子を取り、「失礼しました。」と、はっきりした声で伝え、礼をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まっすぐ立ち、礼までの動作をきびきびと行う。 ・審査員に聞き取りやすいように挨拶の早さや声量を意識する。

(5) 片付けと終了の挨拶

工 程	内 容	指 導 内 容
① 作業表示板を戻す	<ul style="list-style-type: none"> 作業表示板を回収し、作業カートにしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> 作業表示板は静かに持ち上げ、落とさないように注意しながらカートに戻す。 最終点検でゴミを拾った場合は、ダストボックスに入れてから表示板を戻す。
② 作業カートを収納場所に移動	<ul style="list-style-type: none"> 作業カートを収納場所に戻す。 	<ul style="list-style-type: none"> 使用した道具を元の場所に戻す習慣をつける。
③ 審査員に終了の挨拶	<ul style="list-style-type: none"> 片手を上げ、「終了しました。」と言い、礼をする。 	<ul style="list-style-type: none"> まっすぐ立ち、礼までの動作をきびきびと行う。 審査員に聞き取りやすいように挨拶の早さや声量を意識する。

(6) 作業する際の標準経路

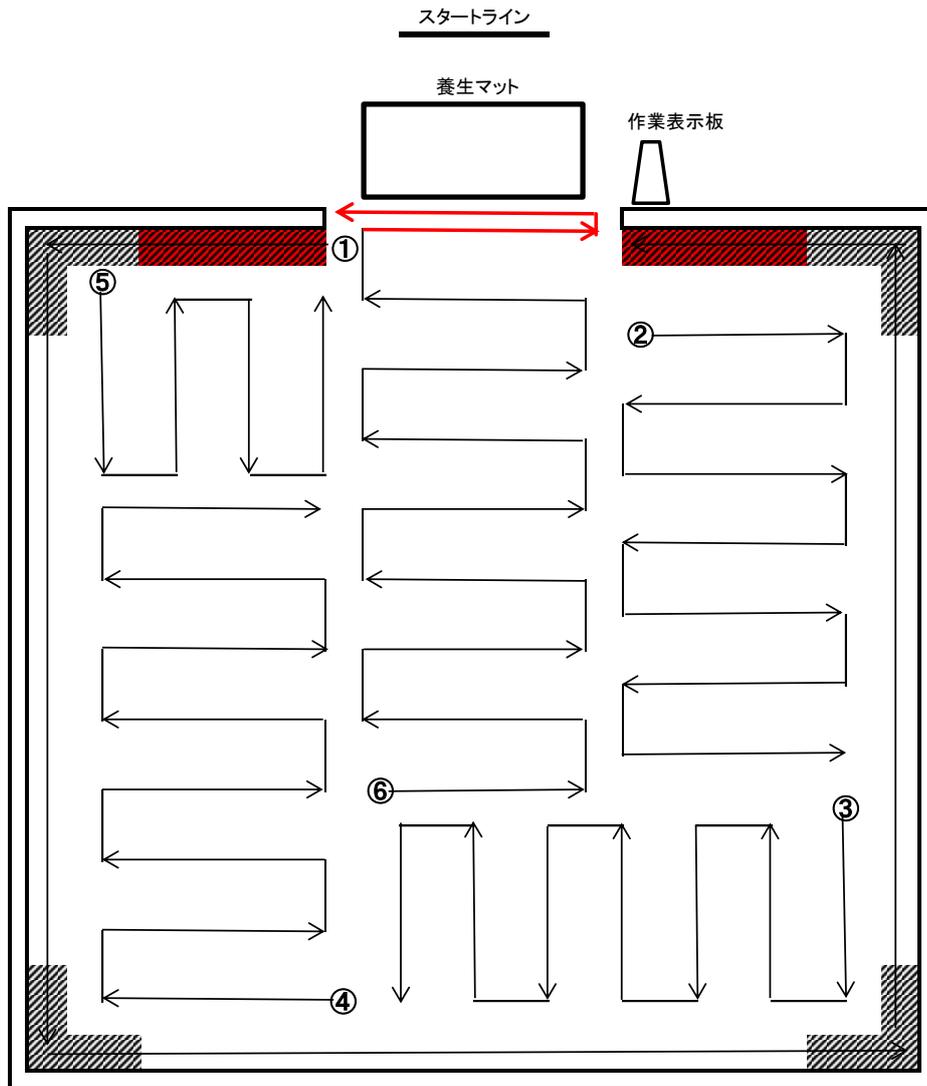
①ダスタークロスの標準経路 (チャレンジ検定)



② 水拭き用モップの標準経路 (チャレンジ検定)

チャレンジ検定

水拭きモップ作業手順



※「赤斜線」と「赤線」で示した部分は、手を添えて拭き上げる技法と立ち姿勢で拭き上げる技法がありますがどちらの手法で作業を進めても問題はありません。

10 評価と採点方法

(1) 評価項目と評価基準

マスター検定、チャレンジ検定の評価項目を示します。検定ではこの評価項目と評価基準で採点していきます。

マスター検定 技能面 3 4 項目、総合的な習熟度や時間及び態度面 4 項目

No.	評価項目	評価基準
服装・作業準備 各項目 5～1 点		
1	帽子、作業服（体操服）、シューズを着用している	身だしなみが整っている
2	作業用カートは作業のしやすい場所に移動されている	枠内から出されている
3	作業表示板は適切な位置に立てられている	表示板のセット位置と向きが正しい
椅子上げ・ゴミ処理とゴミ箱上げ 各項目 5～1 点		
4	椅子は安全に適正な位置に挙げられている	机からはみ出していない
5	ゴミ袋を処理し、新しいゴミ袋が正しくセットされている	ゴミ袋が正確にセットされている
6	ゴミ箱が適切な位置に上げられている	机からはみ出していない
除塵作業 各項目 5～1 点		
7	乾式モップの着脱は適切かつスムーズである	マット上で着脱している
8	モップ柄を正しく持ち作業を行っている	上の手は柄の先端を親指で押さえ下の手は順手で持つ
9	ゴミを踏まず、スムーズにモップ操作を行っている	ヘッドが床から離れていない
10	ゴミの除去方法、手順に無理、無駄がない	規定の順路で処理を行っている

11	幅木や机の脚部にヘッドが触れていない	机、幅木の接触と幅木からの柄のはみ出しがない
12	ゴミの取り残しがない	ゴミの取り残しがない
13	適切な位置でダスタークロスを外し、適切に処理している	ダスタークロスは汚れ面を内側にたたみ、スポンジ面は上向きになっている
14	ヘッド、モップ柄がカートの定位置に収められている	ヘッドのスポンジ面が上になっている
15	小ほうき、チリ取りを適切に使用し取り残しがない	ほうきの使用法（順手で処理）が正しい
16	除塵作業後の指差し確認が適切に行われている	声を出さず目視、指さしで確認している
水拭き作業 各項目5～1点		
17	モップ房の着脱は適切かつスムーズである	マット上で着脱している
18	モップ柄を正しく持ち作業を行っている	上の手は柄の先端を親指で押さえ下の手は順手で持っている
19	四隅、机の脚部は手添えで拭き上げている	モップ房に手を添えて拭き、拭いた場所を踏んでいない
20	拭き上げ方法、手順に無理、無駄がない	規定の順路で拭き上げている
21	幅木や机の脚部にモップ房が触れていない	机、幅木の接触と幅木からの柄のはみ出しがない
22	モップ房の両面を使用し、適切に拭き上げている	方向を変えるまでに1～2回程度モップ房をひっくり返している
23	拭き残し、拭きムラ無く拭き上げている	モップ房の拭き跡の重なりが均等である
24	無理のない姿勢で動作もスムーズに拭き上げている	横一直線に拭き上げている
25	モップ房、モップ柄がカートの定位置に収められている	モップ房は折りたたんだ状態で収められている
椅子・ゴミ箱下ろし 各項目5～1点		
26	椅子とゴミ箱を所定の位置に戻している	作業前と同状態である

机上拭き作業 各項目5～1点		
27	四辺の拭き上げ後、2種類の技法（縦・横）で拭き上げている	縦・横2種類の技法で拭き上げられている
28	拭き向きを変えるときには折り返し、新しい面で拭き上げている	拭き向きを変えるときには面を替えている
29	2種類の技法とも拭き残し、拭きムラなく拭き上げている	拭き残し、拭きむらがない
点検作業 各項目5～1点		
30	指差し確認によりゴミの有無、椅子及びゴミ箱の最終調整	声を出さず目視、指差しで確認している
後片付け 各項目5～1点		
31	作業表示板を作業カートに戻す	カートは所定位置に戻されている
32	作業カートを所定の場所に戻す	枠内の定位置に戻されている
作業態度 各項目5～1点		
33	最初と最後の入退室時の挨拶は適切である	「失礼します」「失礼しました」が適切に言える
34	作業中の入退出時の挨拶は適切である	入退出の都度、黙礼ができています
総合評価		
35	作業中の机の移動等（接触、机上拭き時）	作業中に机にぶつかったり、動かしたりしていない
36	机上のごみ箱の落下、椅子の閉じ、落下	作業中に柄や身体の接触等で落下していない
37	作業全般の 動作・節度・リズム感	優秀・・・10点～8点 良・・・7点～5点 普通・・・4点～1点
作業時間評価		
38	作業時間	規定時間内（10分）・・・10点 10分超～11分・・・7点 11分超～12分・・・4点 12分超～15分・・・1点 15分超～・・・0点（タイムオーバー）

チャレンジ検定 技能面 2 4 項目、総合的な習熟度や時間及び態度面 4 項目

No.	評価項目	評価基準
服装・作業準備 各項目 5～1 点		
1	帽子、作業服（体操服）、シューズを着用している	身だしなみが整っている
2	作業用カートは作業のしやすい場所に移動されている	枠内から出されている
3	作業表示板は適切な位置に立てられている	表示板のセット位置と向きが正しい
除塵作業 各項目 5～1 点		
4	乾式モップの着脱は適切かつスムーズである	マット上で着脱している
5	モップ柄を正しく持ち作業を行っている	上の手は柄の先端を親指で押さえ下の手は順手で持つ
6	ゴミを踏まず、スムーズにモップ操作を行っている	ヘッドが床から離れていない
7	ゴミの除去方法、手順に無理、無駄がない	規定の順路で処理を行っている
8	幅木にヘッドが触れていない	幅木の接触と幅木からの柄のはみ出しがない
9	ゴミの取り残しがない	ゴミの取り残しがない
10	適切な位置でダストクロスを外し、適切に処理している	ダスタークロスは汚れ面を内側にたたみ、スポンジ面は上向きになっている
11	ヘッド、モップ柄がカートの定位置に収められている	ヘッドのスポンジ面が上になっている
12	小ほうき、チリ取りを適切に使用し取り残しがない	ほうきの使用法（順手で処理）が正しい
13	除塵作業後の指差し確認が適切に行われている	声を出さず目視、指さしで確認
水拭き作業 各項目 5～1 点		
14	モップ房の着脱は適切かつスムーズである	マット上で着脱している
15	モップ柄を正しく持ち作業を行っている	上の手は柄の先端を親指で押さえ下の手は順手で持つ

16	四隅は手添えで拭き上げている	モップ房に手を添えて拭き、拭いた場所を踏んでいない
17	拭き上げ方法、手順に無理、無駄がない	規定の順路で拭き上げている
18	幅木にモップ房が触れていない	幅木の接触と幅木からの柄のはみ出しがない
19	モップ房の両面を使用し、適切に拭き上げている	方向を変えるまでに1～2回程度モップ房をひっくり返す
20	拭き残し、拭きムラ無く拭き上げている	モップ房の拭き跡の重なりが均等である
21	モップ房、モップ柄がカートの定位置に収められている	モップ房は折りたたんだ状態で収められている
点検作業 各項目5～1点		
22	指差し確認によりゴミの有無の最終調整	声を出さず目視、指差しで確認
後片付け 各項目5～1点		
23	作業表示板を作業カートに戻す	カートは所定位置に戻されている
24	作業カートを所定の場所に戻す	枠内の定位置に戻されている
作業態度 各項目5～1点		
25	最初と最後の入退室時の挨拶は適切である	「失礼します」「失礼しました」が適切に言える
26	作業中の入退出時の挨拶は適切である	入退出の都度、黙礼ができています
総合評価		
27	作業全般の動作・節度・リズム感	優秀・・・10点～8点 良・・・7点～5点 普通・・・4点～1点
作業時間評価		
28	作業時間	規定時間内（10分）・・・10点 10分超～11分・・・7点 11分超～12分・・・4点 12分超～15分・・・1点 15分超～・・・0点（タイムオーバー）

(2) 採点方法

採点は、3名の審査員によって行われます。採点の概要は次のとおりです。

- ①各審査員が、各項目（検定評価表参照）を評価し採点していく。
- ②1つの項目につき、3名の審査員の仮得点の平均を四捨五入した値を、級の決定に使う評価得点とする。

＜例＞項目2について、審査員Aが4点、審査員Bが3点、審査員Cが4点の場合、平均の値を四捨五入して評価得点4点とする。

- ②全項目の評価得点を合計した総得点で級を決定する。

(3) マスター検定とチャレンジ検定の級

マスター検定とチャレンジ検定でそれぞれ級を決定します。総得点と級は次の表のとおりです。

マスター検定

1 級	200 ~ 191
2 級	190 ~ 181
3 級	180 ~ 171
4 級	170 ~ 161
5 級	160 ~ 146
6 級	145 ~ 131
7 級	130 ~ 111
8 級	110 ~ 91
9 級	90 ~ 61
10 級	60 ~

チャレンジ検定

1 級	150 ~ 141
2 級	140 ~ 126
3 級	125 ~ 111
4 級	110 ~ 96
5 級	95 ~ 81
6 級	80 ~ 61
7 級	60 ~ 41
8 級	40 ~ 31
9 級	30 ~ 21
10 級	20 ~

1 1 参 考 資 料

(1)

鳥取県特別支援学校技能検定(清掃部門) 進行表

【チャレンジ検定】床清掃

作業時間 : 10分

	【検定補佐員】		【審査員】
(検 定 前 準 備)			
A	一組目の受験者にモップ柄の調整、ダスタークロス の取り付けを指示	1	シュレッダー片をコート上に撒く(50ml程度)
B	準備した道具を受験席の横に置き、着座での待機 を指示	2	椅子、ゴミ箱の位置調整
*	二組目からは検定中に「A」の作業を実施		
(検 定 準 備)			
C	(次の方は)受験票を椅子の上かポケットに保管して 準備した道具を持って倉庫の前に来てください		
D	モップ柄とダスターヘッドを作業カート内にセットして 下さい。終わりましたら倉庫から作業に使う道具を カート内に準備して下さい。 準備が終わりましたら確認しますので声を掛けてくだ さい。		
*	資材の配置に不備があれば補佐員が指示し受験者が 修正		
*	受験者から資材セットの要請があれば補佐員が準備		
E	必要な道具は準備(来ています)(出来ました) ので受験票を持ってスタートラインに立ってお待ち 下さい	3	Aコート〇〇番さん、Bコート〇〇番さん、受験票を 持って審査員席に来てください
		4	合図があるまでスタートラインに立ってお待ちください
(検 定 開 始)			
*	検定開始後、次の受験者にモップ柄の調整とダスター クロス取り付けを指示	5	「チャレンジ検定、床清掃」 始め
*	二組目からは検定中に(前受検者)の作業カート内の 資材の搬出と倉庫内の資材のセット		
(検 定 終 了)			
		6	只今の作業時間、Aコート〇分〇秒、Bコート〇分 〇秒でした
F	前受検者が席に着いたら次受験者に検定準備を指示 (C → D → E)の工程を繰り返す	7	審査員席まで受験票を取りに来て下さい
		8	採点表の記入とすり合わせ
*	チリ取り内のゴミは3組終了後に廃棄する		
*	湿式ラグは都度、湿り具合を見て交換 (審査員に指示を仰ぐ)		

(2)

鳥取県特別支援学校技能検定(清掃部門) 進行表

【マスター検定】床及び机上清掃

作業時間 : 10分

	【検定補佐員】		【審査員】
(検 定 前 準 備)			
A	一組目の受験者にモップ柄の調整、ダスタークロス の取り付けを指示	1	シュレッダー片をコート上に撒く(50ml程度)
B	準備した道具を受験席の横に置き、着座での待機 を指示	2	椅子、ゴミ箱の位置調整
*	二組目からは検定中に「A」の作業を実施		
(検 定 準 備)			
C	(次の方は)受験票を椅子の上かポケットに保管して 準備した道具を持って倉庫の前に来てください		
D	モップ柄とダスターヘッドを作業カート内にセットして 下さい。終わりましたら倉庫から必要な道具を選んで カート内に準備して下さい。 準備が終わりましたら確認しますので声を掛けてくだ さい。		
*	資材の選定と配置に不備があれば補佐員が指示し 受験者が修正		
*	受験者から資材セットの要請があれば補佐員が準備		
E	必要な道具は準備(出来ています)(出来ました) ので受験票を持ってスタートラインに立ってお待ち ください	3	Aコート〇〇番さん、Bコート〇〇番さん、受験票を 持って審査員席に来てください
		4	合図があるまでスタートラインに立ってお待ちください
(検 定 開 始)			
*	検定開始後、次の受験者にモップ柄の調整とダスター クロスの取り付けを指示	5	「マスター検定、床及び机上清掃」 始め
*	二組目からは検定中に(前受検者)の作業カート内の 資材の搬出と倉庫内の資材のセット		
(検 定 終 了)			
		6	只今の作業時間、Aコート〇分〇秒、Bコート〇分 〇秒でした
F	前受検者が席に着いたら次受験者に検定準備を指示 (C → D → E)の工程を繰り返す	7	審査員席まで受験票を取りに来て下さい
		8	採点表の記入とすり合わせ
*	チリ取り内のゴミは3組終了後に廃棄する		
*	湿式ラグ、湿式ウエスは都度、湿り具合を見て交換 (審査員に指示を仰ぐ)		